

有限会社 カリ山製作所

職人の経験と勘を今に生かす

納期相談
コスト相談
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応



手作業による仕上げ加工風景

主な事業内容

工作機械や生産工程などに
おける機械部品加工

主な取引先(納入先)

鋼材メーカー、
産業機械メーカー、工具メーカー

主な製品

工作機械の軸受けホルダー、
ブラケット、金型部品

業務内容
金属加工から
ばね製造へ

「カリ山製作所」は、もともと先代の社長が金属加工に携わった経験をもとにばねの製造・販売を始めたのをきっかけにする。その後、当時の取引先から金属加工の依頼があり昭和50年に創業。徐々に機械設備を揃え、各種機械部品の加工に乗り出した。

品質は細部に宿ることを忘れず、「丁寧な仕事」をモットーにする。課題解決における創意工夫を得意とし、加工品の「視」・「目」にも注意を払い、手作業による細かな仕上げを心がけて顧客を増やしてきた。ねじ穴一つにも切粉の付着が残っていないか、チエック項目を設けて抜け目のない検査を実施している。

強み
職人技が生きる
仕上げ加工

同社の強みは、昨今のプログラム制御による高精度な加工技術に加え、今ではあまり行われなくなった面削加工といった、昔からある加工技術を併せ持っていることだ。このふたつの融合により、材質の持つ特性の考慮はもちろん、多品種におよぶ加工品をその

社長あいさつ



代表取締役
刈山 孝司さん

「取り扱う製品の一つひとつに命があるなら」という発想で、「丁寧な仕事」を心がけています。だから、製品の出荷のための梱包に至るまで気を抜くことはありません。「発注先のその元のお客様にまで誇りを持てる仕事をしたい」というのが、この先も変わらぬ思いです。

主な保有設備

- マシニングセンター
主軸回転 14,000回転
- ワイヤ放電加工機
加工ピッチ精度±3μm
- 汎用フライス盤
ラム型、ベッド型

設備投資
継続した設備投資で
競争力高める

用途、要求寸法、加工工程に応じて、最適な加工機種と加工方法を選択し、100分の1mm単位で製品の精度を保つ安定した品質を得意とする。同じ製品・寸法精度であっても、後に製品を手にする人が「どう感じるか」をイメージし、そこに付加価値を提供することと他社と差別化を図るため、製品の完成手前までは自動で加工を行っても、最後の仕上げは長年の経験と勘をもつ職人が行っているという。

同社では、以前はフライス盤を中心にした単加工を行っていたが、ワイヤ放電加工機を平成26年度に導入した。この結果、工程によって最適な工作機械の選択肢が広がり、夜間の自動運転も可能となったことから、生産性の改善や納期の短縮にもつながっている。今後も加工後の「視」・「目」に注意を払い、面取り、ねじ穴確認、防錆処理など、精度以外の品質にもこだわり続ける方針だ。さらに新たな生産体制を構築するため、ワイヤ放電加工機、マシニングセンター(MC)とともに、測定器の導入も計画している。



ワイヤ放電加工機



マシニングセンター

大阪
01

住 所／〒574-0064
大東市
御領1-1-1

T E L／072-874-6358
F A X／072-874-6385

創 業／昭和50年8月
設 立／昭和63年8月
資本金／300万円
従業員／3名